

開院時から毎月発行してきたカスタネット通信が、ついに50号を迎えました。

今月号は6月21日(金)・22日(土)に神戸市で開催された、第25回 日本言語聴覚学会の参加記と学会中に行われた協会企画、認定言語聴覚士(聴覚障害領域)の集いの開催記です。学会中に撮った写真とともにご覧ください。

## 学会参加記



会場の神戸国際会議場

この度、おぎじびSTは6/21、22に神戸で開催された「第25回 日本言語聴覚学会」(ST学会)に参加致しました。1日目には「成人聴覚障害」「小児聴覚障害」「補聴器」といった聴覚分野の演題、構音障害が含まれる「小児発声発語」分野の演題に加え、「高齢者の難聴を考える」シンポジウムなどかなり盛りだくさんの内容でした。今回は人工内耳や耳鳴りに関連する演題が多い印象を受けました。また、日本医学会連合シンポジウムでは加齢性難聴と認知症の関連についての内容について触れられました。現在社会的に認識が広まりつつある話題であり、普段の補聴外来内

でも尋ねられることがあります。講演では、早期の正確な耳の状態や聞こえの評価や適切な聴覚補償の必要性が強調されていたのが印象に残りました。やはり、耳や聞こえについて少しでも気になることがあれば、医療機関に相談し、まずは聴力検査を受けてみて自分の状態を知ることの重要性を改めて感じ、医療機関としても気軽に相談しやすい環境づくりや公の普及啓発活動をもっと積極的に行なっていきたいと思いました。現在、当院では普及啓発活動の一貫として外来とは別に無料で参加できる「聞こえの相談会」を開催予定です。診察や検査は行いませんが、耳や聞こえ、補聴器についての悩みや疑問をご気軽に相談いただければと思います！(9月にも開催予定です。今回申し込み間に合わなかった方は次回ぜひお越しください！)

今回学会の開催地でもある兵庫県神戸市で学会の合間に少しだけ観光もしてきました！神戸は横浜に並ぶお洒落な港町、北野異人館など異人文化や歴史を感じる街並みで昭和レトロなお店や看板が立ち並ぶ商店街がある、そんな街のイメージがあります。そこで、創業80年を超えるレトロな洋食屋さんや老舗の純喫茶に行き、昭和レトロな空間で食事を楽しみました(^^)



洋食店で晩御飯



朝食は喫茶店で

来年のST学会は山形県にて開催されます。次回はどんな学びがあるのか…とても楽しみです！私も日々の臨床業務の中で自己研鑽に励みたいと思います。(高橋)

## 開催記

学会開催中に「協会企画」として、認定言語聴覚士(聴覚障害領域)の集いが行われました。認定言語聴覚士は、日本言語聴覚士協会が制定している資格制度です。2023年度末の時点で、摂食嚥下障害、失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、成人発声発語障害、吃音・小児構音障害の6領域、1000名が認定言語聴覚士に認定されています。ちなみに聴覚障害領域は65名です。



ホテルの窓からの眺め  
(オーシャンビュー！)

認定言語聴覚士の集いは「同じ領域を専門とする言語聴覚士(ST)が集まり、情報を交換する」という目的で、これまでも日本言語聴覚学会の時に開催されてきました。今回は「高齢期難聴における多職種連携」「小児難聴における多職種連携」をテーマに、参加者でグループディスカッションをした後、情報共有の場を持ちました。他領域と比べ、聴覚障害領域の認定言語聴覚士は数が少ないため、認定言語聴覚士以外にも門戸を開き参加者を募ったところ、50人

以上の出席があり「成人聴覚障害」「小児聴覚障害」各2グループずつに分かれてディスカッションを行いました。

私は成人聴覚障害グループの進行役として、ディスカッションに参加しました。超高齢社会の日本では必然的に難聴者の数が増えており、医療の現場はもちろん介護福祉の現場でも、聞こえ、難聴、補聴器、難聴者とのコミュニケーションなどについての知識・理解が必須となっています。そのためSTが中心となり、看護師、栄養士、理学療法士、作業療法士など難聴のある方々に関わる専門職と連携する必要があります。集いでは高齢期難聴をめぐる現状を知り、今後の展望をディスカッションできる時間になればよいと考えていました。

ディスカッションでは「訪問リハで認知症のある方の家に行っているが、聞こえをどう補償すればよいか」「介護施設で補聴器を装用してもらうためにはどのように働きかけていけばよいか」といった話題が挙がりました。集いが始まる前は“多職種連携”が大事と考えていましたが、その前にST同士が協力し高齢期難聴の方々の生活の質を上げる働きかけをする必要があると考えました。私も数少ない聴覚障害領域の認定言語聴覚士のひとりとして、地域の方々、近隣のSTも含めた専門職の方々に向けて聞こえ、難聴、補聴器の啓発活動を積極的に行いたいと思いました。(井上)



神戸肉！

## ショートトリップ

いつもは学会開催中、あるいは学会後に会場周辺の観光地をまわることが多いのですが、今回は学会前に観光をしました。水曜日の勤務終了後、目指すは神戸ではなく京都です。オギジビは駅近で、新横浜にすぐ出られるので便利です。19時10分発のぞみ59号に乗り、21時7分京都着でした。この日は東寺(教王護国寺)の近くのホテルに宿泊しました。せっかく東寺近くのホテルを選んだので、事前準備として『時空旅人 空海と密教』という雑誌を読みました。仏教の歴史が複雑で理解しきれなかったのですが、“空海は遣唐使として唐に渡り密教を学んで帰国した”、“嵯峨天皇が空海に東寺を下賜した”、“東寺には密教の世界を表した両界曼荼羅を仏像で表した立体曼荼羅がある”といった情報を仕入れておきました。



夜の五重塔(国宝)

翌日、ホテル主催の無料東寺ツアーに参加しました。講堂内にある立体曼荼羅を構成する仏像群は圧巻でした。ツアーでは“国宝の五重塔内には空海の像もある”、“境内に豊臣秀吉の区画整理後も変わらなかった平安京当時のままの道が1本だけ残っている”、“蓮花門は空海が高野山に向かうときに通った門で、この時不動明王が現れて見送った”など、雑誌やパンフレットに載っていないエピソードを聞くことができ、面白かったです。

ちなみに今年は真言密教はじまりの地、神護寺創建1200年、空海生誕1250年ということで、今月から東京国立博物館で特別展「神護寺－空海と真言密教のはじまり」が開催されます。国宝の本尊「薬師如来立像」は寺外初公開だそうです。(井上)

